

気仙沼市・南三陸町

復興の推進力となる水産業や
公共土木工事、観光拠点の整備が進む

気仙沼・本吉エリアは、リアス海岸により豊かな景観が形成され、波が静かな天然の良港で、古くから水産業を基幹産業として栄えてきました。湾内は日本有数の養殖漁場となっています。震災の津波によるこのエリアの浸水範囲は28km²と広範囲にわたり、甚大な被害が発生しました。

気仙沼市では盛土かさ上げによる安全な住居系市街地の整備と、商業・工業系市街地の整備を行い、土地区画整理事業では、令和元年9

月に鹿折地区、令和2年9月に南気仙沼地区が竣工しました。南三陸町では、自然環境の保全と活用を推進している町であることを国内外に発信し、交流人口拡大・地方創生への寄与を図るため、志津川湾ラムサール条約湿地登録へ向けて取り組み、平成30年10月に登録されました。

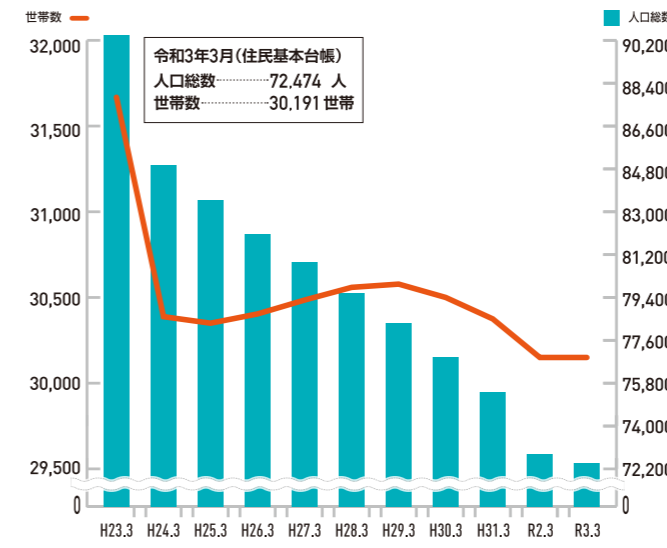
基幹産業である水産業において、気仙沼市では、高度衛生管理に対応した先進的な市場を整備し、平成31年4月に気仙沼市魚市場の供用を開始しました。

道路整備に関しては、三陸縦貫自動車道の整備が進められ、気仙沼港IC～唐桑半島IC間が令

和3年3月に供用を開始したことで、県内区間が全線開通しました。離島振興事業では、気仙沼市の離島・大島と本土を結ぶ気仙沼大島大橋が平成31年4月に供用を開始しました。

観光については、気仙沼市内湾地区が令和2年7月に「ないわん」として、商業施設等がグランドオープンし、気仙沼大島については、商業施設「野杜海(のどか)」と「気仙沼大島ウェルカムターミナル」がオープンし、観光の拠点が整備されました。南三陸町では、「南三陸町震災復興祈念公園」が令和2年10月に開園するとともに中橋が開通し、公園と商店街をつなぐ、交流拠点となりました。

気仙沼・本吉エリアの人口・世帯数の推移



出典:「日本人住民基本台帳人口及び世帯数(令和3年3月末現在)」

被災の状況

● 人的被害 (令和3年3月31日現在)			
1,838人 死者	県全体の約17%	425人 行方不明者	県全体の約35%
● 住宅被害 (令和3年3月31日現在)			
11,626戸 全壊	県全体の約14%	2,749戸 半壊	県全体の約2%
● 避難状況 (県全体ピーク時)			
154か所 避難所	県全体の約12% (平成23年3月15日 午前11時)	24,984人 避難者	県全体の約8% (平成23年3月14日 午後6時)
● 応急仮設住宅入居者 (令和2年12月31日現在)			
0人 プレハブ住宅	県全体の0%	0人 民間賃貸借上住宅	県全体の0%

※応急仮設住宅の供与は終了しました。

浸水域図

津波の痕跡高

地域名	最大浸水深	最大遡上高
気仙沼市(旧唐桑町)	15.2m	21.1m
気仙沼市	16.6m	17.3m
気仙沼市(旧本吉町)	19.3m	22.3m
南三陸町(旧歌津町)	18.1m	26.1m
南三陸町(旧志津川町)	19.6m	20.2m

出典:東日本大震災—宮城県の発災後一年間の災害対応の記録とその検証—(宮城県)

凡例

浸水域

国土地理院

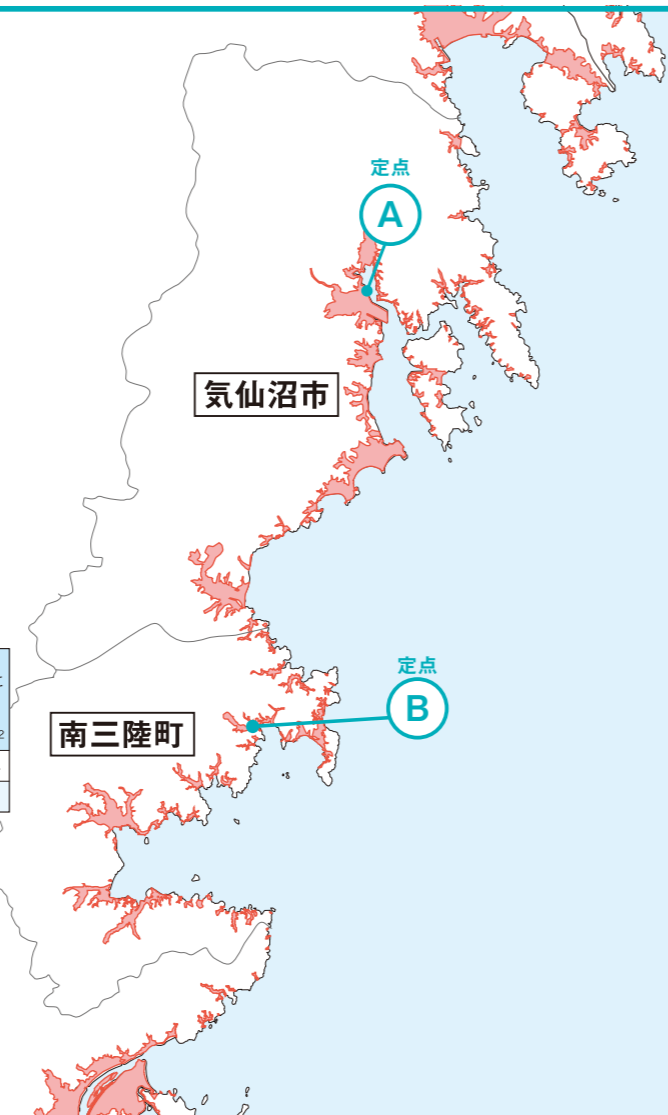
被災市町の基本データ及び被災関係データ

出典:総務省統計局刊行「統計でみる市区町村のすがた2015」

地域名	人口総数(人) ^{※3}	世帯数(世帯) ^{※3}	総面積(北方地域及び竹島を除く)(km ²)	可住地面積(km ²)	浸水域面積(km ²) ^{※1}	推定浸水域にかかる人口(人) ^{※2}	推定浸水域にかかる世帯数(世帯) ^{※2}
気仙沼市	73,489	25,457	333	93	18	40,331	13,974
南三陸町	17,429	5,295	164	37	10	14,389	4,375

※1 国土地理院:平成23年4月18日公表 ※2 総務省統計局:平成23年4月25日公表

※3 総務省統計局:平成22年10月1日(国勢調査結果)



復旧・復興状況(定点観測)

A 気仙沼市魚市場前地区



B 南三陸町歌津地区



復旧・復興の最終段階を迎え、
発展と震災の伝承の取組へ

石巻エリアは、仙台平野に続く肥沃な耕地と、世界三大漁場である三陸沖に囲まれた、農水産業や工業が盛んな地域です。東日本大震災では津波により113kmという広大な範囲が浸水し、多くの建物等が流出・全壊しました。石巻市は震災における死者・行方不明者の数が全国で最多となる等、甚大な被害に見舞われました。

震災から10年、着実に復旧・復興が進みました。応急仮設住宅は3市町合計10,344戸

が整備されましたが、災害公営住宅の入居が進んだことにより役目を終え、令和2年度までに全ての応急仮設住宅が解体されました。

水産業においては、全ての地区で漁港施設災害復旧事業を完了したほか、農業においては、令和3年の全面営農再開に向け農業設備等の復旧工事も大詰めを迎えています。また、オリーブやイチジク等の新たな地域ブランド化を目指しています。

女川町役場、石巻市北上総合支所等被災した公共施設の復旧・移転も相次いで完了し、防災拠点としての機能も強化・集約されました。警察施設、消防署も令和3年までに移転

再建が進められます。

観光面では、宮城オルレ「奥松島コース」や、かわまち交流センター、おしかホエールタウン、硯上の里おがつ等、新たなスポットへの期待も高まっています。

学校施設においては、北上小学校、鳴瀬未来中学校、女川小中学校等が相次いで移転・新築完了となりました。

震災を後世に伝える「石巻南浜津波復興祈念公園」が令和2年度に開園したほか、震災遺構として旧野蒜駅プラットホーム、旧女川交番が公開され、旧大川小学校、旧門脇小学校も公開が決定されました。

浸水域図

津波の痕跡高

地域名	最大浸水高	最大遡上高
石巻市(旧北上町)	14.4m	17.8m
石巻市(旧雄勝町)	16.2m	21.0m
石巻市(旧河北町)	5.0m	8.8m
石巻市(旧河南町)	2.6m	-m
石巻市	11.5m	12.0m
石巻市(旧牡鹿町)	17.5m	26.0m
女川町	18.5m	34.7m
東松島市(旧矢本町)	7.6m	-m
東松島市(旧鳴瀬町)	10.1m	-m

出典：東日本大震災一宮城県発災後一年間の災害対応の記録とその検証―(宮城県)
※平野部については内陸部ほど津波高が低くなり浸水高が最も高くなることから、遡上高については記載していない

被災市町の基本データ及び被災関係データ

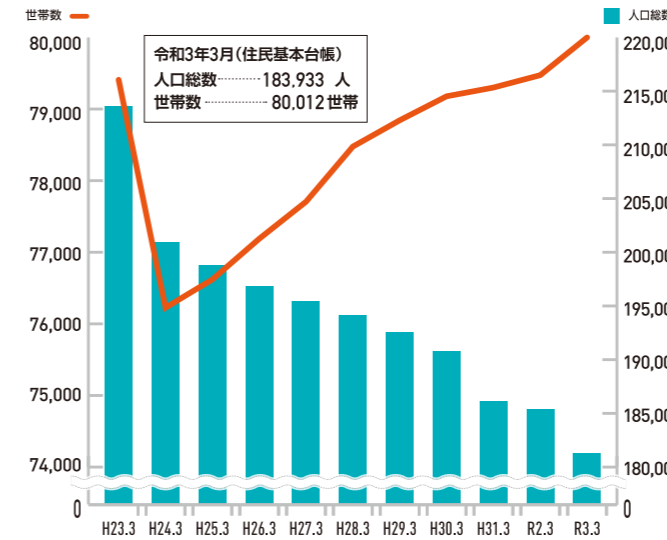
出典：総務省統計局刊行「統計でみる市区町村のすがた2015」

地域名	人口総数(人) ^{※3}	世帯数(世帯) ^{※3}	総面積(北方地域及び竹島を除く)(km ²)	可住地面積(km ²)	浸水範囲面積(km ²) ^{※1}	推定浸水域にかかる人口(人) ^{※2}	推定浸水域にかかる世帯数(世帯) ^{※2}
石巻市	160,826	57,871	556	242	73	112,276	42,157
東松島市	42,903	14,013	102	70	37	34,014	11,251
女川町	10,051	3,968	66	10	3	8,048	3,155

※1 国土地理院：平成23年4月18日公表 ※2 総務省統計局：平成23年4月25日公表
※3 総務省統計局：平成22年10月1日(国勢調査結果)

凡例
浸水域
国土地理院

石巻エリアの人口・世帯数の推移



出典：「日本人住民基本台帳人口及び世帯数(令和3年3月末現在)」

被災の状況

● 人的被害 (令和3年3月31日現在)

5,301人 死者	県全体の約50%	697人 行方不明者	県全体の約35%
--------------	----------	---------------	----------

● 住宅被害 (令和3年3月31日現在)

28,487戸 全壊	県全体の約14%	18,956戸 半壊	県全体の約12%
---------------	----------	---------------	----------

● 避難状況 (県全体ピーク時)

277か所 避難所	県全体の約21% (平成23年3月15日 午前11時)	125,831人 避難者	県全体の約39% (平成23年3月14日 午後6時)
--------------	--------------------------------	-----------------	-------------------------------

● 応急仮設住宅入居者 (令和2年12月31日現在)

0人 プレハブ住宅	県全体の0%	0人 民間賃貸借上住宅	県全体の0%
--------------	--------	----------------	--------

※応急仮設住宅の供与は終了しました。

復旧・復興状況(定点観測)

A 女川町女川浜地区



B 東松島市野蒜地区



仙台市・塩竈市・名取市・多賀城市・岩沼市・亶理町・山元町・松島町・七ヶ浜町・利府町

暮らしの基盤が整い、各地で防災・伝承のあり方を探る

仙台沿岸エリアは、名取川、阿武隈川の流域に堆積した土砂により発達した東北地方最大の仙台平野を有しています。このエリアでは、仙台市を中心に商業や工業等の産業が集積しています。津波によって、エリア内の浸水範囲は186.5km²に及び、仙台市内陸部も含む全半壊の住宅被害が市町村別では県内最大となったほか、農地冠水や農業用機械・施設の流出による被害も甚大でした。

災害公営住宅整備事業については、平成30年に名取市で全ての災害公営住宅が完成し、仙台沿岸

エリアにおける応急仮設住宅の供与については、令和2年度までに終了しました。

福祉については亶理町で令和2年、役場新庁舎開庁に合わせて「保健福祉センター」が開設され、町民の健康増進はもちろん災害時の医療救護活動の拠点としても活用されています。

観光においては、亶理町B&G海洋センター（艇庫）が復旧したほか、平成31年4月に名取市の「かわまちてらす開上」がオープンしました。

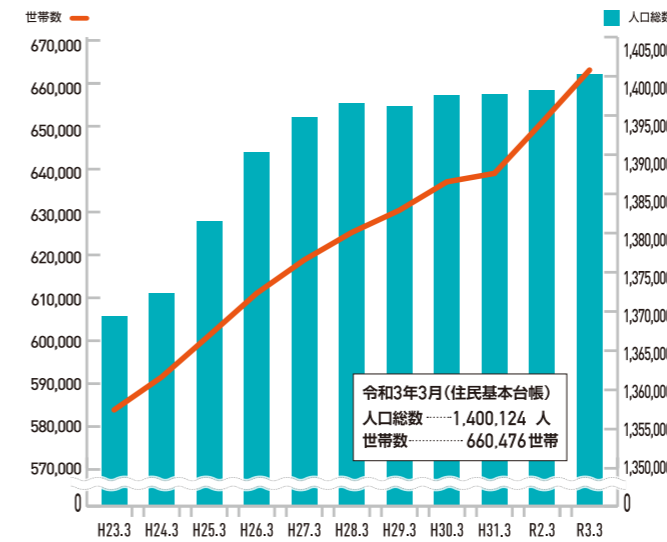
令和元年に名取市開上地区まちびらきが行われ、土地区画整理事業については、令和2年度に事業が完了しました。また、岩沼市、七ヶ浜町で区画整理事業が令和2年に完了しました。

教育に関しては、被災した名取市開上小学校と中学校が統合、移転新築し、平成30年に県内初の9年制義務教育校「開上小中学校」として開校しました。

防災においては、震災の伝承と防災機能強化に力が入れられ、平成30年に塩竈市津波防災センターが開所したほか、各市町庁舎の防災機能強化が図られました。令和元年には仙台市で「世界防災フォーラム／防災ダボス会議@仙台2019」が開催されました。

伝承の取組としては、名取市震災復興伝承館、山元町震災遺構中浜小学校などが公開されました。

仙台沿岸エリアの人口・世帯数の推移



出典:「日本人住民基本台帳人口及び世帯数(令和3年3月末現在)」

被災の状況

● 人的被害 (令和3年3月31日現在)			
3,396人 死者	県全体の約32%	89人 行方不明者	県全体の約7%
● 住宅被害 (令和3年3月31日現在)			
41,546戸 全壊	県全体の約50%	124,923戸 半壊	県全体の約81%
● 避難状況 (県全体ピーク時)			
515か所 避難所	県全体の約39% (平成23年3月15日 午前11時)	145,865人 避難者	県全体の約45% (平成23年3月14日 午後6時)
● 応急仮設住宅入居者 (令和2年12月31日現在)			
0人 プレハブ住宅	県全体の0%	0人 民間賃貸借上住宅	県全体の0%

※応急仮設住宅の供与は終了しました。

浸水域図

津波の痕跡高

地域名	最大浸水深	最大遡上高	地域名	最大浸水深	最大遡上高
松島町	2.8m	-m	仙台市若林区	11.9m	-m
利府町	6.3m	-m	仙台市太白区	2.1m	-m
塩竈市	4.8m	-m	名取市	11.8m	-m
七ヶ浜町	11.6m	-m	岩沼市	10.5m	-m
多賀城市	5.5m	-m	亶理町	8.1m	-m
仙台市宮城野区	13.9m	-m	山元町	14.6m	10.4m

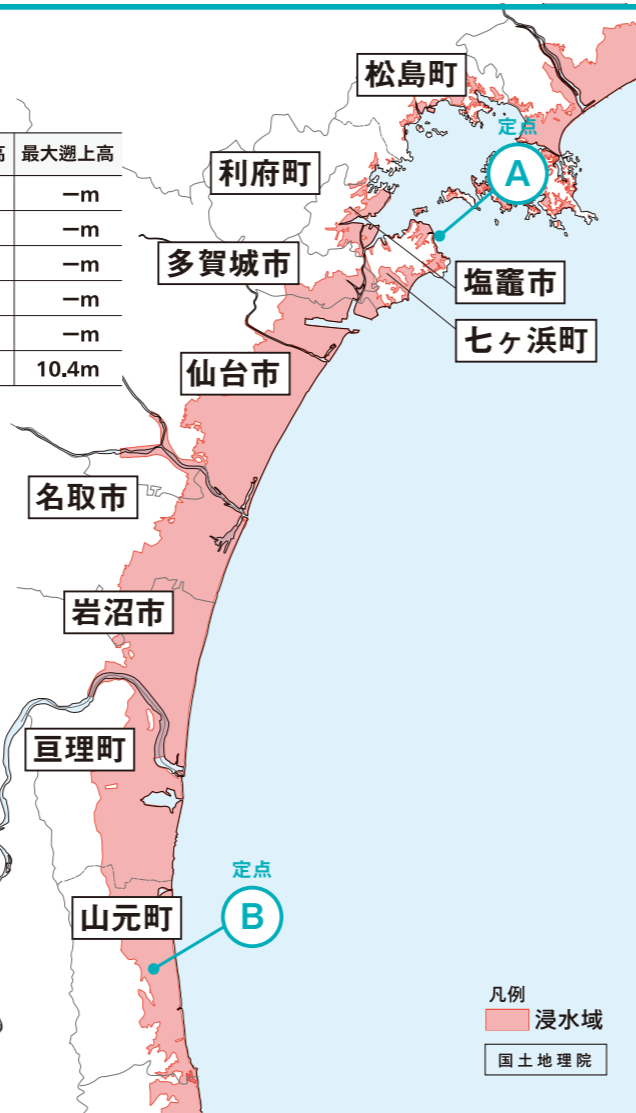
出典:東日本大震災一宮城県発災後一年間の災害対応の記録とその検証(宮城県)
※平野部については内陸部ほど津波高が低くなり浸水深が最も高くなることから、遡上高については記載していない。

被災市町の基本データ及び被災関係データ

出典:総務省統計局刊行「統計でみる市区町村のすがた2015」

地域名	人口総数(人) ^{※3}	世帯数(世帯) ^{※3}	総面積(北方地域及び竹島を除く)(km ²)	可住地面積(km ²)	浸水範囲面積(km ²) ^{※1}	推定浸水域にかかる人口(人) ^{※2}	推定浸水域にかかる世帯数(世帯) ^{※2}
仙台市	1,045,986	465,260	784	339		29,962	10,385
青葉区	291,436	144,125	302	95			
宮城野区	190,473	85,925	58	54	20	17,375	6,551
若林区	132,306	58,914	48	46	29	9,386	2,698
太白区	220,588	91,526	228	71	3	3,201	1,136
泉区	211,183	84,770	147	72			
塩竈市	56,490	20,396	18	15	6	18,718	6,973
名取市	73,134	25,124	100	71	27	12,155	3,974
多賀城市	63,060	24,079	20	19	6	17,144	6,648
岩沼市	44,187	15,519	61	47	29	8,051	2,337
亶理町	34,845	10,903	73	61	35	14,080	4,196
山元町	16,704	5,235	64	43	24	8,990	2,913
松島町	15,085	5,137	54	26	2	4,053	1,477
七ヶ浜町	20,416	6,415	13	11	5	9,149	2,751
利府町	33,994	10,818	45	20	0.5	542	192

※1 国土地理院:平成23年4月18日公表 ※2 総務省統計局:平成23年4月25日公表
※3 総務省統計局:平成22年10月1日(国勢調査結果)



復旧・復興状況(定点観測)

A 七ヶ浜町吉田花淵港地区



B 山元町坂元地区



内陸エリア

白石市・角田市・登米市・栗原市・大崎市・富谷市・蔵王町・七ヶ宿町・大河原町・村田町・柴田町・川崎町・丸森町・大和町・大郷町・大衡村・色麻町・加美町・涌谷町・美里町

地域の状況に応じた

避難訓練及び地域防災計画の改定

内陸エリアの除染処置については、平成29年3月までに全て完了していますが、白石市、角田市、栗原市、七ヶ宿町、大河原町、丸森町に整備された除染土等の仮置き場では、空間線量を計測する等、適正な管理が続けられています。

道路改築事業では、県沿岸部に位置する仙台空港や仙台東部道路と、内陸部を縦貫する東北自動車道等とを結び、県南地域の広域連携を強化する幹線道路である主要地方道岩沼蔵王線の岩沼市と村田町をつなぐ「志賀姥ヶ懐トンネル」が令和元年12月に完成しました。トンネルにより結ばれる区間は、これまでは屈曲カーブが多く狭隘な峠道で、大雨では通行止めとなっていました。今回の供用により、沿岸部と内陸部を結び信頼性の高い東西交通軸が形成され、産業振興、観光交流の活性化、また救急医療活動への支援が図られ、東日本大震災からの震災復興にも寄与するものと期待されています。

地域の状況に応じた様々な訓練が実施されるとともに、災害対策基本法の一部改正や防災基本計画の修正等が行われたことを踏まえ、地域防災計画の改定も行われました。登米市では、国の防災基本計画・原子力災害対策指針、県の

地域防災計画等の修正内容を踏まえ、平成31年3月18日に開催した登米市防災会議において、震災対策編・風水害等災害対策編・原子力災害対策編から構成されている登米市地域防災計画の一部を修正しました。大崎市では、令和3年3月に避難所の運営・管理において感染症対策に関する記載を追加する等、地域防災計画を改訂しました。丸森町では、令和元年東日本台風の災害対応における教訓や課題を踏まえ、自主防災組織や住民を対象としたワークショップの開催、災害検証委員会の設置などを経て最終案を固め、令和3年6月に丸森町地域防災計画の風水害等災害対策編を改訂する予定です。

被害の状況

栗原市高清水地区



最大震度7を観測した栗原市では、高清水総合支所などの役場庁舎も損壊等の被害を受けました。

登米市東和地区



地震により、東和総合運動公園では、野球場やテニスコート場の法面崩壊が起きるなどの被害が発生しました。

涌谷町涌谷地区



震災後、上水道の供給が停止したため、給水車による給水が行われ、多くの被災者が行列をつくりました。

蔵王町円田地区



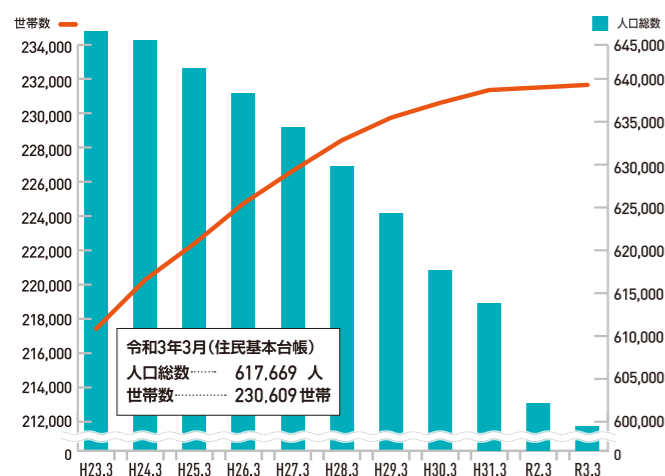
震動による液状化で、マンホールが地上に大きく突き出す被害が、各地で発生しました。

七ヶ宿町



地震により、県道南蔵王七ヶ宿線で法面が崩落するなど、大きな道路被害が発生しました。

内陸エリアの人口・世帯数の推移



出典：「日本人住民基本台帳人口及び世帯数(令和3年3月末現在)」

被災の状況

● 人的被害 (令和3年3月31日現在)	33人 死者	県全体の約0.3%	5人 行方不明者	県全体の約0.4%
● 住宅被害 (令和3年3月31日現在)	1,346戸 全壊	県全体の約2%	8,502戸 半壊	県全体の約5%
● 避難状況 (県全体ピーク時)	377か所 避難所	県全体の約28% (平成23年3月15日 午前11時)	24,205人 避難者	県全体の約8% (平成23年3月14日 午後6時)
● 応急仮設住宅入居者 (令和2年12月31日現在)	0人 フレハブ住宅	県全体の0%	0人 民間賃貸借上住宅	県全体の0%

※応急仮設住宅の供与は終了しました。

復興の歩み(平成30年度～令和2年度の出来事)

2018年(平成30年)

4月	1日	「荒浜漁港フィッシャリーナ」がリニューアルオープン(亶理町)	8月	24日	宮城県気仙沼洋向高等学校が完成 ～入校舎式典開催～(気仙沼市)
	7日	関上小中一貫教育校が完成～開校式開催～(名取市)			
	14日	「亶理都市公園・鳥の海公園」が完成～開園式開催～(亶理町)	9月	8日	「石巻市かわまち交流センター」が完成(石巻市)
	18日	女川町の災害公営住宅整備事業が完了 ～完了式典開催～(女川町)			
5月	31日	石巻市防災センターが完成～開所式典開催～(石巻市)	10月	1日	女川町新庁舎が完成～開庁式開催～(女川町)
				7日	宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」がオープン(気仙沼市)
				8日	宮城オルレ「奥松島コース」がオープン(東松島市)
7月	8日	仙台市海岸公園(井戸地区)が再開(仙台市)		18日	志津川湾がラムサール条約湿地に登録(南三陸町)
	12日	塩竈市津波防災センターがオープン(塩竈市)			
	21日	渡波海水浴場で震災後初となる海開き(石巻市)	11月	15日	観光集客施設「迎(ムカエル)」本格オープン(気仙沼市)

2019年(平成31年・令和元年)

2月	9日	山元町農水産物直売所「やまもと夢いちごの郷」がオープン(山元町)	5月	10日	山元町役場の新庁舎が完成～開庁記念式典開催～(山元町)
	16日	三陸縦貫自動車道「歌津IC～小泉海岸IC間」(南三陸町)、「本吉津谷IC～大谷海岸IC間」(気仙沼市)が開通		26日	名取市関上地区でまちびらきを開催(名取市)
3月	10日	「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館」がオープン(気仙沼市)	6月	9日	みちのく潮風トレイル全線開通
	11日	東日本大震災から8年。各地で追悼式典開催	7月	20日	小泉海水浴場が9年ぶりの海開き(気仙沼市)
	22日	被災した岩沼市立東保育所が玉浦西地区で再建～開所式開催～(岩沼市)		26日	気仙沼大島に商業施設「野杜海(のどか)」がオープン(気仙沼市)
	31日	県内全ての災害公営住宅が完成	8月	2日	震災遺構「仙台市荒浜地区住宅基礎」が公開開始(仙台市)
4月	1日	「気仙沼市魚市場」が供用開始(気仙沼市)	10月	4日	牡鹿半島鮎川浜に観光物産交流施設「cottu(こつ)」がオープン(石巻市)
	7日	気仙沼大島大橋が完成～開通式開催～(気仙沼市)			
	25日	「かわまちてらす関上」がオープン(名取市)	11月	30日	東部復興道路が開通(仙台市)

2020年(令和2年)

1月	9日	亶理町役場新庁舎・保健福祉センターが完成～開庁式典開催～(亶理町)	7月	22日	「おしかホエールランド」がリニューアルオープン(石巻市)
2月	24日	三陸縦貫自動車道「気仙沼中央IC～気仙沼港IC間」が開通(気仙沼市)	9月	10日	一般国道398号「内海橋」が開通(石巻市)
				26日	「山元町震災遺構 中浜小学校」が一般公開開始(山元町)
3月	11日	東日本大震災から9年。各地で追悼式典開催	10月	12日	「南三陸町震災復興祈念公園」が全体開園(南三陸町)
5月	21日	「硯上の里おがつ」がオープン(石巻市)		25日	ピーチ・アビエーションがLCC初となる仙台～那覇線を開設
6月	12日	宮城県水門・陸開自動閉鎖システムの運用開始	11月	21日	三陸縦貫自動車道「小泉海岸IC～本吉津谷IC間」が開通

2021年(令和3年)

3月	6日	三陸縦貫自動車道宮城県内全線開通	3月	28日	「石巻南浜津波復興祈念公園」が開園(石巻市)
	11日	東日本大震災から10年。各地で追悼式典開催		30日	「大島架橋事業」全線供用開始
		「気仙沼市復興祈念公園」が開園(気仙沼市)			

これまでに
お寄せいただいた支援
(令和3年3月31日現在)

- 寄附金 13,780件 / 349億5,999万6千円
- 義援金 206,614件 / 273億996万6千円
- 東日本大震災みやぎこども育英募金 20,070件 / 122億842万6千円
- 活動ボランティア延べ人数
(平成23年3月12日～令和3年3月31日) 77万7,729人
- 全国自治体からの応援職員(令和3年3月1日時点) 宮城県: 74人 / 市町村: 314人